

# 平成 28 年度活動報告書

法人の名称 NPO法人ミニシティ・プラス

## 1. 事業活動方針

28 年度も、定款に基づき、「まちづくり」を通して、大人も子どもも、生まれてきたすべての人が、社会の大切な一員であることをお互いに認め合い、助け合ってこそ、より良い社会がつけられるという団体の理念を、楽しみながら学んでいく事業を実行して来ました。

NPO法人ミニシティ・プラスが 28 年度に実施した主な事業は以下の 4 つです。

### 「ミニヨコハマシティ」

28 年度のこどものまち「ミニヨコハマシティ」は、新たな事業として「こどもがつくる昔の村～ミニ都筑」を 2016 年 10 月 2 日に初開催し、こどもたちの参勤交代なども行われ、大盛況となりました。3 月に毎年行っているハウスクエアでの開催協力が得られなくなり、模索した結果、中川のリアルなまちの中で、「ミニヨコハマシティ」を行いました。中川西地区センターの共催、区役所、中川駅前商業地区振興会の協力を経て、はじめてのまちなかでの開催は、地域の人達にも大変喜ばれ、1 日の開催だったため、いつもの倍のこどもたちでまちがにぎわいました。

「こどもがつくるまち全国主催者サミット」 in 相模原には、NPO スタッフとともにミニヨコ市長、副市長が参加し、全国のこどものまちの代表たちと交流しました。そこで U19 こどものまち全国サミットを横浜で開催したいという案を持ち帰りました。

### 「つづきジュニア編集局」

東京都市大学と連携しながら都筑区を中心に行っているこどものメディア、つづきジュニア編集局。記者は 66 名となり、年間を通して取材活動を行いました。今年度は区役所に協力し、商店街取材を行いました。29 年 1 月には集大成としてタブロイド新聞のつづきジュニアタイムズ（2 万 5 千部発行）を発行し、順調に事業を行って来ました。

### 「特命子ども地域アクタープロジェクト」

2012 年度新しい公共モデル事業として神奈川県と協働でスタートした「特命子ども地域アクタープロジェクト」は、かながわボランティア活動推進基金 21 の協働事業として再スタート 3 年目となりました。（最長 5 年継続）。公募で集まった小学 5 年～高校 3 年までの 43 名の特命子ども地域アクターが、14 のまちづくり団体に派遣され、各事業の企画から参加して活躍してもらいました。成果発表会は横浜市立大学で開催しました。

### 「こどものまちづくり応援事業」

こどものまちづくり応援事業を、かながわ生き生き市民基金エラベルの寄付により、2 事業実施しました。こども発案の 2 事業は、「防災訓練こども参画」と「松田町国際交流事業」で、こどもたちの希望と地域をコーディネートし、成功裡に終了しました。

## 2. 事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る活動

①こどもが創るまち「ミニシティプログラム」の研究、開発に関する事業  
支出額 1,206,606 円

#### ◆ 第 10 回「ミニヨコハマシティ」開催

内容) こどもがつくるまち「ミニヨコハマシティ」の実施  
場所) 都筑区内（中川西地区センター&中川商店街）  
実行期間) 2016 年 12 月より子ども会議開催～2017 年 3 月 20 日開催  
従事者人員) 6 人  
受益対象者) 19 歳以下のこどもたち、約 500 人

#### ◆ 「ミニ都筑」開催

内容) こどもがつくる昔のむら「ミニ都筑」の準備会議と実施  
場所) 都筑区内（横浜市歴史博物館&都筑民家園）  
実行期間) 2016 年 6 月子ども会議～2016 年 10 月 2 日イベント実施  
従事者人員) 6 人  
受益対象者) 19 歳以下のこどもたち、約 200 人

## ②「ミニシティプログラム」の普及・啓発に関する事業

支出額 368,747 円

### ◆ 他のミニシティとの交流や地域の NPO へのイベントの協力など

内容) 「こども環境学会」「こどものまち全国サミット」  
場所) 富山(こども環境学会)、相模原(こどものまち全国サミット)  
実行期間) 2016年4月 こども環境会議 ポスターセッション参加  
2015年8月 こどものまち全国主催者サミット in 相模原 参加  
従事者人員) 3人(環境学会) 4人(こどものまちサミット)  
受益対象者) 全国のこども環境にかかわる事業の実施者、こども環境の研究者

### ◆ こどもの社会参画の原点「ミニ・ミュンヘン」取材プロジェクト

内容) ローカルグッドよこはまを通して、ミニ・ミュンヘンに高校生市長がミニ・ミュンヘンに行き、取材し、DVDを作成し、発表するプロジェクト。  
場所) ドイツ、他  
実行期間) 2016年8月～2017年1月  
従事者人員) 3人  
受益対象者) 趣旨に賛同してくれた寄付者のみなさま

## ③地域まちづくりの活性化を目指したイベントの企画・運営に関する事業

支出額 412,618 円

### ◆ つづきジュニア編集局

内容) 公募で集まったジュニア記者が、こどもたちの目線で、まちを取材し、情報発信。まちのファンを増やし、まちづくりに役立てる。新聞発行等。  
実行期間) 2016年5月～2017年1月  
従事者人員) 3人  
受益対象者) 小学4年～高校生までの青少年 約66名

## ④地方自治体や地域活動団体、国際交流団体等公益団体との協働事業

支出額 5,293,082 円

### ◆ 特命子ども地域アクタープロジェクト

内容) こども・青少年があたりまえに社会参画する地域基盤構築を目指す事業  
公募で集まった43名の小学5年～高校生までの「特命子ども地域アクター」に、まちづくり講座を横浜市立大学と協力し提供し、まちづくり現場(14団体)への派遣をNPOメンバーがサポートしながら行った。派遣後に横浜市立大学で成果発表会を行った。  
実行期間) 2016年4月～2017年3月  
従事者人員) 10人  
受益対象者) 小学5年～高校生までの青少年43人、まちづくり団体14

### ◆ こどものまちづくり応援事業

内容) かながわ生き生き市民基金を資金に、こどもたちからの応募で採択した、こども発案の2事業「防災訓練こども参画」と「松田町国際交流事業」を行った。  
実行期間) 2016年7月～2017年2月  
従事者人員) 4人  
受益対象者) 「防災訓練こども参画」は、企画した中学生とは防災訓練に参加した人。  
「松田町国際交流事業」は、企画した高校生と松田町国際交流イベント参加者

### ◆ 青少年のアイデアを生かした新しい防災プロジェクト

内容) 昨年度横浜市立大学との連携で生まれた「こども防災マイスター」が発案し、オリジナル防災手帳をつくるというワークショップを行った。  
実行期間) 2016年7月24日  
従事者人員) 3人  
受益対象者) 小学5年～高校生までの青少年15人

## ⑤その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

とくになし。